



地域子育てネットワークだより

令和3年4月号

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県企画県民部女性青少年局男女家庭課

E-MAIL : danjokatei@pref.hyogo.lg.jp 電話 : (780) 341-7711 (内線 2798)



子育て応援ネット全県大会を開催

家庭・地域・学校が連携し、地域ぐるみで子育て家庭への支援を推進する「子育て応援ネット全県大会」がオンラインで開催されました。

活動事例発表と『『あたりまえ』は地域の宝～みんなでつなげる笑顔の輪～』と題し臨床心理士・スクールカウンセラーの中村経子（なかむらのりこ）氏による講演が行われました。

地域の子育て支援をどのように進めていけばよいのかについて考え、今後も地域住民による子育て家庭の見守り活動等の展開を支援していきましょう。



挨拶



新型コロナウイルス感染拡大のため各地域で活動が思うように実施できない中、「**地域の子どもは地域で守る**」という言葉のとおり、子どもの見守り活動をはじめ、多くの子育て支援事業に取り組んでいただいていますこと、心からお礼と感謝を申し上げます。

平成9年に起きたじゅんちゃん事件を契機に、「**子育て応援ネット**」として、子どもの安全・安心を守り、子育て家庭を応援する活動を全県で取り組んで来ました。

しかし、今も小さな命が犠牲になる悲しい事件が全国各地で起きております。地域で活動する私たちが今一度地域で頑張り、**子どもを、そして子育て家庭の応援**をしていただきたいと思います。

兵庫県連合婦人会 会長 友藤 富士子

講演

『『あたりまえ』は地域の宝～みんなでつなげる笑顔の輪～』
臨床心理士・スクールカウンセラー 中村 経子（なかむらのりこ）氏

災害やコロナ禍などの有事の際には、これまでの**経験と教訓をもとにした対応**が求められます。今回は、有事の際に体験した話をもとに、地域活動において、明日から使えるヒントをお伝えします。過去、さまざまな災害がありました。災害支援で現地へ赴いたときにさまざまな声を聞きました。「言いたいことも言いにくい雰囲気がある」「〇〇と比べたら・・・」「私にもできることがあると元気になる」などです。どの地域においても共通していることは、**地域の『あたりまえ』は地域によって異なる**ということです。

この体験から、私が一番伝えたいことは、「**相手への伝え方**」です。これからは、相手に言わなくても分かるという考え方でなく、相手に自分の気持ちを伝えることが大切です。そのとき、2点のことに意識してみてください。

- ①**共通の話題**・・・挨拶やお天気などの話題から会話する。
- ②**言葉づかい**・・・「～ない」と否定的でなく肯定的に伝えることで、受け手の捉え方が大きく変化する。

（例）「次は遅刻しないで。」→「今日は楽しかったよ。次は全部の時間を使おうね。」みなさんが日々の活動でされている見守り活動や挨拶運動などで実践してみてください。日頃、『あたりまえ』とされていることを改めて考えることで、今後のヒントに繋がります。

基本を大切に、**今までの経験と教訓を忘れずに**、活動を継続していきましょう。



【淡路市婦人会 西村 邦枝氏】
「子どもと一緒に教育と防災の取組み」

淡路市東浦地区婦人会の地域住民との関わりや防災の取組みについて紹介します。地域の住民と一緒に家庭教育について考える機会として、「本当に大切なことって何だろう」と題し、講演会を実施しました。家族間のコミュニケーションの大切さなどを伝え「子どもとお母さんが触れ合う時間を奪うのでスマートフォンに子守をさせないで」と参加者に強く語られ、「家族間のことで参考になることが多かった」と多くの皆様から好評でした。

防災の取組みとして、楽しみながら知識を身につけてもらうため、「防災お菓子ポシェット」づくりを行い、その3つの役割を子どもたちに伝えています。

- ①非常食の代わり（避難所で食べるお菓子）
- ②笑顔のお守り（賞味期限があり、その日まで災害がなくてよかったね）
- ③感謝の心を育む（災害がなくてよかったと家族で喜び感謝する）

小学校の课外授業の一環の「子ども教室」や地域のイベント等で防災ポシェット作りを行っています。子どもたちの真剣に取り組む姿に、幼いころから防災教育が重要であると、改めて感じました。

また、例年は地域の夏祭りに子どもたちの想像力を養う活動としてバルーンアート体験を実施しています。これからも地域のために、さまざまな取組みを行い貢献していきます。

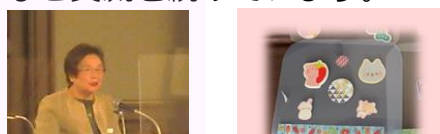


【東灘区連合婦人会 山本 孝子氏】
「子どもたちの輝く未来のために 信頼しあって暮らせるまちづくり」

東灘区連合婦人会の地域での子育て支援の取組みについて紹介します。例年では、1月四世代かるた大会、2月新1年生とのお茶会、3月幼稚園児とおひな祭り、4月新学期を祝う会、5月だんじり祭のお食事づくり、7月七夕祭り8月盆踊り指導、10月三世代交流グランドゴルフ大会、親子焼き芋大会など多くのイベントを通じ、子どもたちの想像性や協調性を育むことや地域住民との交流を大切に実施してきました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大のため、今年は例年行っている活動ができませんでした。その状況のなか、何かしなければと思い、「よかったら使ってね、手作りマスク運動」を始めました。手作りマスクを2,000枚作成し、メッセージを付け、地域の児童館や子ども食堂や高齢者施設などに寄贈しました。子どもたちから手作りの「マスク置き兼マスク入れ」をお返しとさせていただくなど交流を続けています。

これからも、子どもたちの輝く未来のため、交流の風が吹き、信頼し合って暮らせるまちづくりを目指していきます。



コロナ禍の中で、注意すべき子どもの健康

県立こども病院名誉院長 中村 肇

連載第151号

長期にわたる新型コロナ禍で、子どもたちが多くのストレスを抱えていることが判明しています。子どもはストレスを言葉で表現することが苦手です。頭痛、腹痛、倦怠感、不眠、イライラ感、登校しぶり、食欲低下、過食などの身体症状やいつもと違う行動に気がつけてください。また、子どもに接するお母さん、お父さんご自身の心のケアが大切です。周りの人たちの気づきも大切です。

乳幼児健診は、年齢ごとに起こりやすい病気や問題を早めに見つけて治療などに結びつけるために重要で、予防接種は推奨スケジュール通りに接種することが最も有効

です。健診や予防接種を行っている医療機関や施設は、感染対策をしていますので、乳幼児健診や予防接種は推奨スケジュール通りに受けましょう。新型コロナウイルス感染症の流行により、これらの実施方法が変更となっている場合がありますので、かかりつけ医や自治体の母子保健担当部局等にお問い合わせください。

